

4

具体的な分析方法の例

「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果公表及び調査結果の活用や取扱いについて」(抄)

(令和7年8月8日付け7文科教第799号文部科学省総合教育政策局長通知)

2. 令和7年度調査結果の活用及び取扱いについて

(1) 調査結果の活用

(略) なお、調査結果の分析に当たっては、教科調査の平均正答数、平均正答率、平均IRTスコアのみならず、個々の問題や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析したり、学習指導要領の趣旨を踏まえた取組、ICT機器の活用、教科に関する意識や学習活動等に係る質問調査の結果と合わせて総合的に分析、評価したりすることを通じて、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要であること。(略)

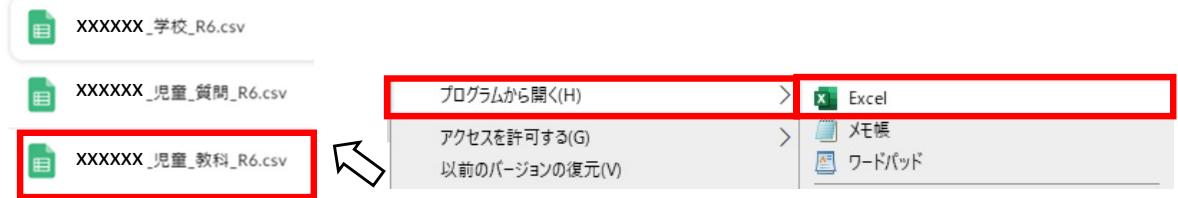
【分析の準備】児童生徒のローデータファイルを1つのファイルに結合する -1

(注1) ご紹介する操作方法はあくまでも一例です。また、ファイルを使用する環境によっては、異なる操作が必要となる場合があります。

(注2) 小学校の例です。中学校も同様です。

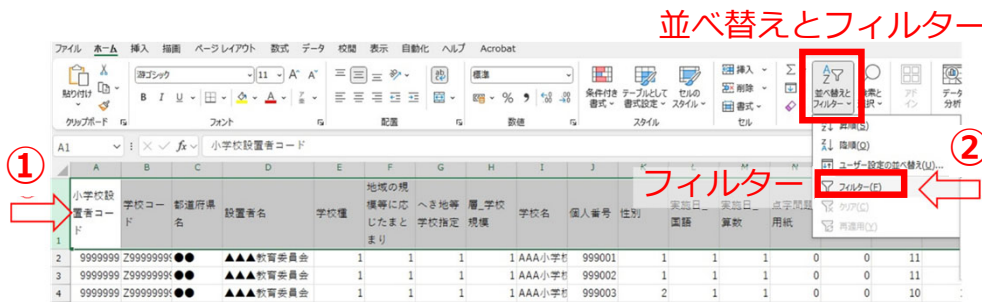
(1) 各児童（教科調査）のローデータファイル（xxx_児童_教科_R7.csv）をExcelで立ち上げる。

- ① CSVファイルにポインタを合わせて、右クリック。
- ② プログラムから開く。
- ③ Excelを選択する。

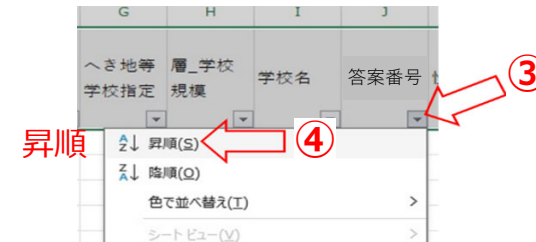


(2) 答案番号順にデータを並べる。

- ① 1行目を左クリックして選択する。
- ② 「ホーム」タブ → 編集の「並べ替えとフィルター」のプルダウン候補の中から「フィルター（F）」を選択する。



- ③ 1行目の「答案番号」のセル横の▽を押す。
- ④ プルダウン候補の中から「昇順」を選択し、昇順に並べ替える。



(3) (1)と同じ手順で各児童（質問調査）のローデータファイル（xxx_児童_質問_R7.csv）を立ち上げる。

(4) (2)と同じ手順で答案番号順にデータを並べる。

【分析の準備】 児童生徒のローデータファイルを1つのファイルに結合する -2

(5) 2つのローデータファイルを結合する。

- ①各児童（質問調査）のローデータファイル（xxx_児童_質問_R7.csv）の「実施_児童質問」の列から最後の「学校質問0xx」の列までを選択する（下図）。

L	M	N	O	P	Q	FB	FC	FD	FE	FF	FG
実施_児童質問	児童質問_001	児童質問_002	児童質問_003	児童質問_004	児童質問_005	学校質問_087	学校質問_088	学校質問_089	学校質問_090	学校質問_091	学校質問_092
▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
1	1	2	1	1	1	2	2	2	2	2	2
1	2	3	2	3	1	2	2	2	2	2	2
1	1	1	2	2	1	2	2	2	2	2	2
1	1	2	1	1	1	2	2	2	2	2	2
1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2
1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2
1	1	1	1	2	1	2	2	2	2	2	2
1	1	2	3	1	1	2	2	2	2	2	2
1	1	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2
1	1	2	3	1	1	2	2	2	1	2	2
1	2	2	1	1	1	2	2	2	1	2	2

- ②①で選択した範囲をコピーする。

- ③各児童（教科調査）のローデータファイル（xxx_児童_教科_R7.csv）の教科調査のデータの右側に②でコピーしたデータを貼り付ける。

(6) (5)で作成したファイルを、名前を付けて保存する。その際、EXCEL形式（.xlsx）で保存する。

ファイル名(N):	結合ファイル
ファイルの種類(T):	CSV (コンマ区切り) (*.csv)
作成者:	Excel ブック (*.xlsx)
	Excel マクロ有効ブック (*.xlsm)
	Excel バイナリブック (*.xlsb)
	Excel 97-2003 ブック (*.xls)
フォルダーの非表示	CSV UTF-8 (コンマ区切り) (*.csv)

※csv形式のままだと、結合が正しく保存されない。

⇒本資料中では「**結合ファイル**」と呼ぶ。

【分析例①】教科調査正答率と児童質問調査回答状況の相関係数を求める

(注) ご紹介する操作方法はあくまでも一例です。また、ファイルを使用する環境によっては、異なる操作が必要となる場合があります。

ここでは結合ファイル (Excel形式) を使って、以下の2つの項目の相関係数 (ピアソンの積率相関係数 r) を求めます。

- ・各児童の小学校国語全体の正答率
- ・各児童の児童質問調査(1)「朝食を毎日食べていますか」の回答状況

質問調査×質問調査、教科調査の個別の設問×質問調査などの相関係数も、同様の方法で算出できます。

(1) (フィルター未設定の場合) フィルターを設定する。

- ① 1行目を左クリックして選択する。
- ② 「ホーム」タブ → 編集の「並べ替えとフィルター」のプルダウン候補の中から「フィルター (F)」を選択する。

(2) 「実施日_国語」で「1(当日実施)」となっている児童の行のみを表示させる。

- ① 1行目の「実施日_国語」のセル横の▽を押す。
- ② 1のみにチェックを残し、それ以外「0(未実施)」 「2(後日実施)」からチェックを外す。



(3) 「児童質問_001」で「0(その他)」 「99(無回答)」となっている児童のデータを非表示とする。

- ① 1行目の「児童質問_001」のセル横の▽を押す。
- ② 「0(その他)」 「99(無回答)」からチェックを外す。

(4) (3) の状態でシート上のデータを全てコピーし、別シートに貼り付ける。

(5) (4) で作成したシートの任意のセルに、ピアソンの積率相関係数 r を求めるための式を入力する。

=PEARSON(

(6) 「正答数_国語」の列を左クリックで全て選択する。

正答数_国語

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
1	小学校設置学校コード	都道府県名	設置者名	学校種	地域の規模	へき地等号	属_学校規	学校名	答案番号	性別	実施日_国	実施日_算	点字問題	拡大文字	正答数_国	正答数_算	
2	7500002	B1502100	■■■■	75000	1	2	1	3B1502	9000095		0	0	0	0			
3	7500002	B1502100	■■■■	75000	1	2	1	3B1502	9000025		1	1	1	1	0	0	0
4	7500002	B1502100	■■■■	75000	1	2	1	3B1502	9000028		2	1	1	0	0	0	14
5	7500002	B1502100	■■■■	75000	1	2	1	3B1502	9000029		2	1	1	0	0	0	9
6	7500002	B1502100	■■■■	75000	1	2	1	3B1502	9000030		2	1	1	0	0	0	12
7	7500002	B1502100	■■■■	75000	1	2	1	3B1502	9000032		1	1	1	0	0	0	13
8	7500002	B1502100	■■■■	75000	1	2	1	3B1502	9000039		1	1	1	0	0	0	5
9	7500002	B1502100	■■■■	75000	1	2	1	3B1502	9000041		1	1	1	0	0	0	1
10	7500002	B1502100	■■■■	75000	1	2	1	3B1502	9000049		1	1	1	0	0	0	4
11	7500002	B1502100	■■■■	75000	1	2	1	3B1502	9000051		2	1	1	0	0	0	7
12	7500002	B1502100	■■■■	75000	1	2	1	3B1502	9000055		2	1	1	0	0	0	11

(7) 「児童質問_001」の列を左クリックで全て選択する。

(8) (5) のセルが「=PEARSON(P:P,DA:DA)」のようになる。最後に「)」 (半角閉じカッコ) を入力してEnterを押すと、相関係数 r が計算される。

=
PEARSON(P:P,DA:DA)

Enter

0.24184958

全国学力・学習状況調査における「家にある本の冊数」の質問項目

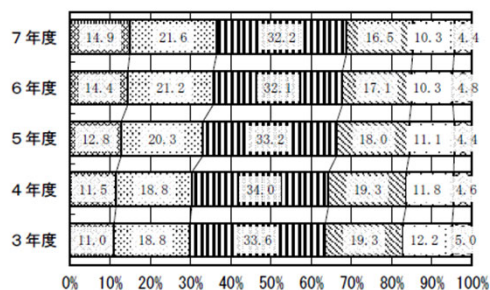
- SES（SES: Socio-economic Status、社会経済的背景）とは、家庭の社会経済的背景であり、保護者の学歴・年収・職業、教育への関心など多様なものを含んだ概念である。
- 「家にある本の冊数」については、SESの代替指標として国際調査・TIMSSでも用いられており、PISAでも家庭の社会経済的背景を測る上で、一つの構成指標となっている。
- 教育再生実行会議等で、全国学力・学習状況調査においてSESについても把握することの必要性が提言されたことなどを踏まえ、令和3年度調査から児童生徒質問調査に「家にある本の冊数」についての質問項目を盛り込んでいる。

令和7年度全国学力・学習状況調査 報告書（質問調査）

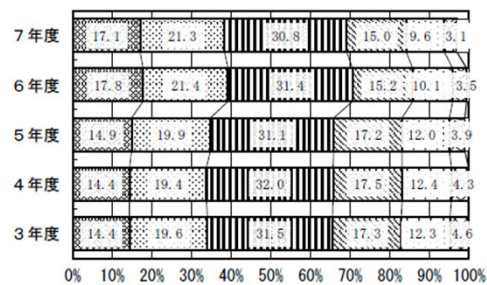
	0~10冊		11~25冊		26~100冊
	101~200冊		201~500冊		501冊以上
	その他		無回答		

	質問番号	前回の比較	最大9回前の比較	質問事項
小	22	→	↘	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く〔一般の雑誌、新聞、教科書は除く〕）
中	22	→	↘	

【小学校】



【中学校】



※ 点字で回答する児童向けの児童質問紙調査では、「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（オーディオブックも含みます。雑誌、新聞、教科書は除きます）」という質問になっており、この集計に合算されていることに留意する必要がある。

※1 当該設問がSESの代替指標として適切であることが近年の調査データから検証されている。

（例）田端健人「家庭の蔵書数はSES（社会経済的状況）の代替指標として適切か？—全国学力・学習状況調査、PISA、TIMSSの多面的分析による検証—」『宮城教育大学教職大学院紀要(5)』93-100頁、2024年3月

※2 令和7年度の当該設問から【分析例④】(6)の方法と同じ方法で全国平均SESを算出すると、以下のとおりとなる。

小学校 3.0、中学校 2.9

※3 学校質問調査「就学援助を受けている児童〔生徒〕の割合は、どれくらいですか。」をSESに活用する場合には、就学援助の基準が自治体によって異なること、就学援助を受けていない児童生徒の状況を把握できないこと等に留意する必要がある。

【分析例②】各市町村・学校の「家にある本の冊数」と全国、都道府県の状況を比較する

(注) 小学校の例です。中学校も同様です。

単純集計結果の比較は、提供している以下の帳票でできます。

<市町村教育委員会>

児童質問調査の回答結果集計に関する以下の帳票

- ・ 小学校設置者コード_04回答結果集計 [生徒質問<表>]
- ・ 小学校設置者コード_05回答結果集計 [児童質問<グラフ>]

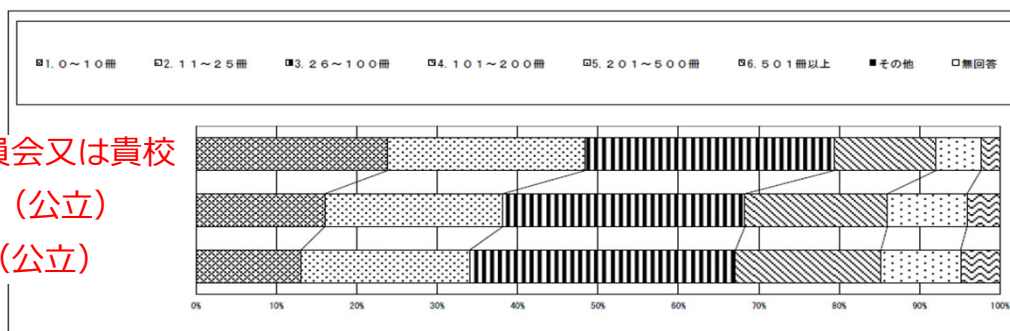
<学校>

児童質問調査の回答結果集計

- ・ 学校番号 04回答結果集計 [生徒質問<表>]
- ・ 学校番号_05回答結果集計 [児童質問<グラフ>]

令和7年度全国学力・学習状況調査 回答結果集計 [児童質問]		小学校調査										
7509276教育委員会-児童												
<small>※1：質問番号(1)～(71)は、4月18日以降4月30日までに実施した調査の結果を集計した値である。 ※2：質問番号(国1)と(国2)、(県1)と(県2)、(国1)と(国2)は、それぞれ国語、算数、理科の調査を4月17日以降4月30日までに実施した調査の結果を集計した値である。 ※3：①～④の表の「児童数」は、この集計の対象となった児童数である。 ※4：【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答されたもの』である。</small>												

質問番号	質問事項											その他	無回答
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
(22)	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか											0.0	0.0
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答	
貴教育委員会	23.8	24.6	31.0	12.7	5.6	2.4					0.0	0.0	
■■■■ (公立)	16.0	22.1	30.1	17.7	9.9	4.1					0.0	0.0	
全国 (公立)	13.1	21.0	33.0	18.1	9.9	4.9					0.0	0.0	



【分析例③】SESグループ別の相関係数を求める

(注1) ご紹介する操作方法はあくまでも一例です。また、ファイルを使用する環境によっては、異なる操作が必要となる場合があります。

(注2) 小学校の例です。中学校も同様です。

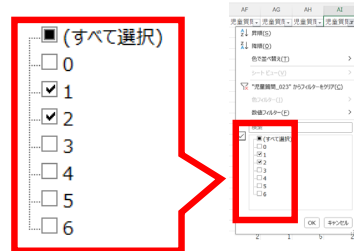
「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果(概要)」では、児童生徒を【低SESグループ(本が0~25冊)】【中SESグループ(本が26~100冊)】【高SESグループ(本が101冊以上)】の3つに分けて分析を行った結果も掲載しています(p.50、p.51、p.70、p.71など)。ここでは結合ファイル(Excel形式)を使って、児童生徒をSES別に3つのグループに分けた上で、2つの項目の相関係数を求める方法をご紹介します。

(1) (フィルター未設定の場合) フィルターを設定する。

- ① 1行目を左クリックして選択する。
- ② 「ホーム」タブ → 編集の「並べ替えとフィルター」のプルダウン候補の中から「フィルター(F)」を選択する。

(2) 「児童質問_022」で「1(0~10冊)」「2(11~25冊)」と回答した児童(低SESグループ)の行のみを表示させる。

- ① 1行目の「児童質問_022」のセル横の▽を押す。
- ② 1、2のみにチェックを残し、それ以外からはチェックを外す。



(3) (2)の状態ですべてのデータをコピーし、別シートに貼り付けると、低SESグループの児童のみのデータが掲載されたシートができる。 → 「低SESシート」

(4) 「低SESシート」において、【分析例①】と同じ要領で相関係数を求める。

(5) (2)・(3)と同じ要領で「中SESシート」「高SESシート」を作成する。

- 「児童質問_022」で「3(26~100冊)」と回答している児童(中SESグループ)の行のみを表示させてコピーし、別シートに貼り付ける。 → 「中SESシート」
- 「児童質問_022」で「4(101~200冊)」「5(201~500冊)」「6(501冊以上)」と回答している児童(高SESグループ)の行のみをコピーし、別シートに貼り付ける。 → 「高SESシート」

(6) 「中SESシート」「高SESシート」においても、【分析例①】と同じ要領で相関係数を求める。

(7) (4)・(6)で算出した相関係数を比較する。

【分析例④】 各自治体・学校の平均正答率と平均SESの相関を確認する -1

(注1) ご紹介する操作方法はあくまでも一例です。また、ファイルを使用する環境によっては、異なる操作が必要となる場合があります。

(注2) 小学校の例です。中学校も同様です。

各自治体・学校の調査結果についても、平均正答率のみではなく、当該自治体・学校の平均SESなど質問調査の結果と合わせて総合的に分析、評価することが重要です。ここでは結合ファイル（Excel形式）を使って、以下の2つの項目の相関が確認できる散布図を作成します。

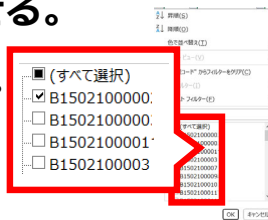
- ・調査当日に小学校国語を実施した児童の、学校ごとの平均SES
- ・調査当日に小学校国語を実施した児童の、学校ごとの平均正答率

(1) (フィルター未設定の場合) フィルターを設定する。

- ① 1行目を左クリックして選択する。
- ② 「ホーム」タブ → 編集の「並べ替えとフィルター」のプルダウン候補の中から「フィルター (F)」を選択する。

(2) 分析したいA小学校の行のみを表示させる。

- ① 1行目の「学校コード」のセル横の▽を押す。
- ② A小学校の学校コードのみにチェックを残し、それ以外からはチェックを外す。



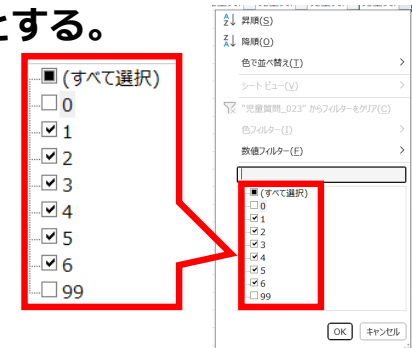
(3) 「実施日_国語」で「1(当日実施)」となっている児童の行のみを表示させる。

- ① 1行目の「実施日_国語」のセル横の▽を押す。
- ② 1のみにチェックを残し、それ以外「0(未実施)」 「2(後日実施)」からチェックを外す。



(4) 「児童質問_022」で「0(その他)」 「99(無回答)」となっている児童のデータを非表示とする。

- ① 1行目の「児童質問_001」のセル横の▽を押す。
- ② 「0(その他)」 「99(無回答)」からチェックを外す。

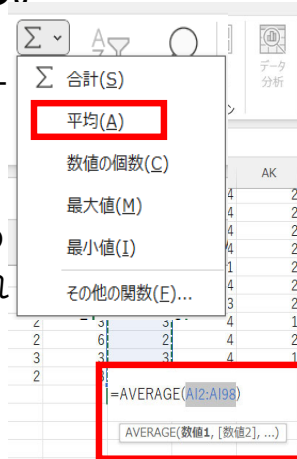


(5) (4) の状態でシートデータを全てコピーし、別シートに貼り付ける。 → 「A小学校シート」

【分析例④】 各自治体・学校の平均正答率と平均SESの相関を確認する -2

(6) A小学校シートを使って、調査当日に小学校国語を実施したA小学校の児童の平均SESを求める。

① 「児童質問_022」の列の下側でデータが入っていないセルを左クリックして、「ホーム」タブ → 編集の「Σ (合計)」のプルダウン候補の中から「平均」を選択する。



② 計算範囲として「児童質問_022」の全てのデータが自動で指定されるので、問題なければEnterキーを押す。計算範囲を変える場合は、ドラッグして選択する。

※AVERAGE関数を使用してもよい。

(7) エクセルの任意の箇所に表を作成し、(6)で求めたA小学校の児童の平均SESと国語の平均正答率と記入する。

(8) (2) ~ (7)を繰り返し、他の小学校の児童の平均SES、国語の平均正答率も表に記入する。

	平均SES	国語の平均正答率
A小学校	1.8	69
B小学校	2.1	52
C小学校	2.4	67
D小学校	2.7	52
E小学校	3.0	67
F小学校	3.3	80
G小学校	3.6	67
① 平均	2.7 ⇒ (10)①	65 ⇒ (10)②

平均SESの数値が大きいほど、児童の家にいる本の冊数の平均が高いことを意味する。

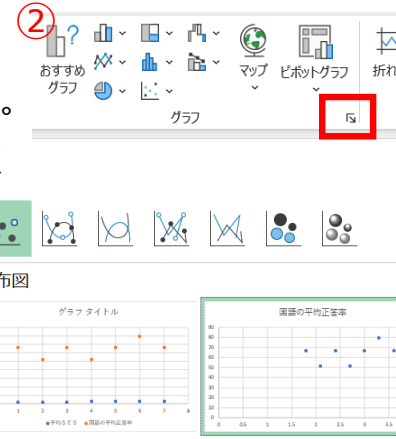
① (6)の方法で平均を求める。

(9) (8)の表から散布図を作成する。

① (8)の表全体をドラッグして選択する。

② 「挿入」タブ → グラフの右下の矢印ボタンをクリックする。

③ 「すべてのグラフ」 → 「散布図」を選択し、2量の関係を示す散布図の作成を選ぶ



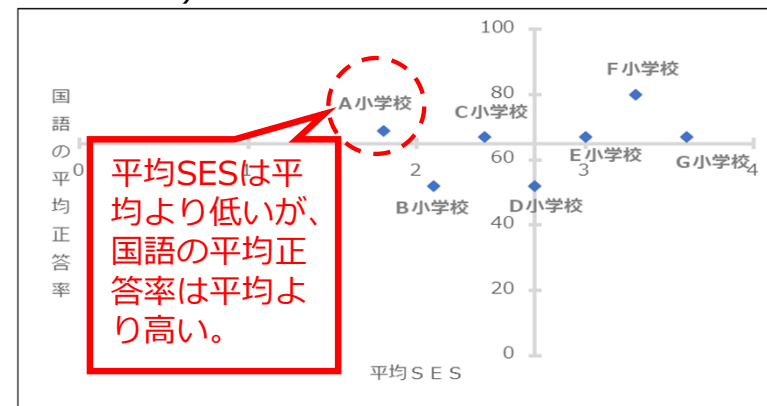
(10) (9)で作成した散布図を4象限に分ける。

① 横軸を右クリック → 「軸の書式設定」 → (8)

① 平均SESの平均を「縦軸との交点 軸の値 (E)」に入力

② 縦軸を右クリック → 「軸の書式設定」 → (8)

① 国語の平均正答率の平均を「横軸との交点 軸の値 (E)」に入力



平均SESは平均より低いですが、国語の平均正答率は平均より高い。

